

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
教育原理 (Principles of Education)		喜舎場 勤子

### 授業の到達目標及びテーマ

知識理解：教育の機能・目的・方法等について基礎知識を理解し説明できる。  
「学校」「教育課程」「学力観」等について説明できる。  
思考判断：学校を取り巻く諸問題を歴史や制度の変遷に照らし合わせ課題等が指摘できる。  
関心意欲：教育に関する時事問題に興味を持つ。  
態度：質問し意見を述べる。

### 授業の概要

教育原理では、教育の基本的事項について学ぶ。具体的には、「教育とは何か」「なぜ学校へ行くのか」等、自明の理として突き詰めて考えられる事の少ないこれらに焦点をあて、「教育」という営みそのものを問い直す。教育が社会の中でどのように誕生し営まれてきたのか、その歴史的・思想的変遷から学び、現代教育へのつながりを理解する。また、教育及び教育機関を取り巻く諸問題を取り扱い、それらに含まれる教育課題の考察をとおして多角的に教育を見る目を養う。

### 授 業 計 画

第 1 回： オリエンテーション	第 9 回： 子どもの問題と学校教育①
第 2 回： 人間形成と教育機能	第 10 回： 子どもの問題と学校教育②
第 3 回： 社会と学校	第 11 回： 課題発表①
第 4 回： 学校論とその課題	第 12 回： 課題発表②
第 5 回： 発達と尺度	第 13 回： 家庭の教育力について
第 6 回： 「子ども」の誕生	第 14 回： 社会変化と教育課題
第 7 回： 「子ども」の再考	第 15 回： 学校観の変化
第 8 回： 教育内容とカリキュラム	第 16 回： 定期試験

テキスト： 青木久子ほか『教育学への視座』萌文書林

参 考 書： 文部科学省『幼稚園教育要領』・厚生労働省『保育所保育指針』、必要に応じてプリント対応

### 評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○					60
小テスト・ 授業内レポート	○	○					20
授業態度・ 授業への参加度			○	○			10
受講者の発表							評価に加えず
演 習							評価に加えず
出 席			○	○			10
その他							

履修上の注意： 講義形式の授業ですが双方向型の講義を重視してできるだけ発言の機会をもうける。  
提出物は期限厳守。 レポートについては初回講義時に説明予定。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
発達心理学 I (Developmental Psychology I)		大城りえ・上地亜矢子

授業の到達目標及びテーマ

子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。さらに、初期経験の重要性を理解し、保育との関連を考察する。

授業の概要

人間は発達可能性にみちた存在であることを理解する。その上で、乳幼児の発達の特徴を学び、保育者に求められるかかわりを理解する。さらに、障がいをもつ子どもたちの発達の理解を深める。

授 業 計 画

第1回： オリエンテーション、発達心理学とは	第9回： 乳幼児期：認知の発達
第2回： 人間発達とその特徴 (発達段階・発達課題)	第10回： : ことばの発達
第3回： 発達を規定する要因	第11回： : 感情の発達と自我
第4回： 胎児期の発達	第12回： : 遊びの発達
第5回： 乳幼児期：身体的機能と運動機能の発達	第13回： 障がいを持つ子どもたちの理解①
第6回： : 愛着の発達①	第14回： 障がいを持つ子どもたちの理解②
第7回： : 愛着の発達②	第15回： まとめ・授業内試験
第8回： 乳幼児期：知覚の発達	

テキスト：新保育士養成講座編纂委員会（編）新保育士養成講座 第6巻 保育の心理学 全国社会福祉協議会  
その他担当者が準備する。

参 考 書： 随時、紹介する。

評価方法・評価基準：期末試験、授業内レポート（毎時間提出）、出席

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○		○			50
小テスト・ 授業内レポート	○		○				35
授業態度・ 授業への参加度							評価に加えず
受講者の発表							評価に加えず
演 習							評価に加えず
出 席			○				15
その他							

履修上の注意：授業計画に基づき、各自必ず予習を行って下さい。授業内レポートとして、授業のまとめと感想を毎時間提出します。

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
健康指導法 (Health Education Methodology)		宮城 圭子

授業の到達目標及びテーマ

保育内容としての「健康」について理論と実際を理解する。

授業の概要

1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針「健康」のねらい・内容とその指導の基本を学習する。
2. 幼児期の身体発達や運動発達など特性を踏まえて、実際の子どもの活動の姿や指導のあり方について学習する。
3. 今日の課題である「基本的生活習慣」、「食育」、「進んで戸外で遊ぶ」について家庭との連携のあり方などを学習する。

授 業 計 画

第 1 回 : 学習計画
第 2 回 : 子どもと健康
第 3 回 : 子どもの健康問題の時代推移と課題
第 4 回 : 心身の健康に関する領域「健康」 (保育所保育指針・幼稚園教育要領)
第 5 回 : 子どもの身体にかかわる発達
第 6 回 : 運動遊び
第 7 回 : 運動遊びの展開
第 8 回 : 基本的生活習慣指導の展開 (1)

第 9 回 : 基本的生活習慣指導の展開 (2)
第 10 回 : 食育の展開
第 11 回 : 安全習慣・安全管理の指導・展開 (1)
第 12 回 : 安全習慣・安全管理の指導・展開 (2)
第 13 回 : 幼児期の性教育
第 14 回 : 健康保育の実践と評価の視点・保護者 啓発・健康支援者としての保育者の 役割
第 15 回 : 定期試験・まとめ

\* 都合により内容や順序を変更することがある。

テキスト： 新・保育内容シリーズ「健康」谷田貝公昭（監修） 一藝社

参 考 書：

評価方法・評価基準：レポート、期末テスト

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○					60
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度・ 授業への参加度				○			20
受講者の発表	○		○				10
演 習							
出 席			○			○	10
その他							

履修上の注意：

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
人間関係指導法 (Teach.Meth.of Hu.Rel.of Children)		赤嶺 優子

授業の到達目標及びテーマ

知識理解：人とのかかわりに関する領域「人間関係」のねらいや内容を理解する。  
 関心意欲：あそびと領域「人間関係」について関心が持てる。  
 思考判断力：領域「人間関係」目標について解釈することができる。  
 態度：実践例を通して、幼児期における人とのかかわりについて学ぶ。

授業の概要

幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「人間関係」について理解を深める。  
 また、幼稚園教育要領、保育所保育指針の目標、ねらい、内容を理解する。実践例を  
 とおして、幼児期における、人とのかかわりについて学ぶ。

授 業 計 画

第 1 回： 「人間関係」の意義・乳幼児期の発達と人間関係	第 9 回： 「人間関係」の内容の取り扱い ①
第 2 回： ビデオ視聴「人間関係のはじまり」	第 10 回： 「人間関係」の内容の取り扱い ②
第 3 回： 「人間関係」の目標とねらい	第 11 回： 規範意識の芽生え
第 4 回： 「人間関係」のねらいと内容 ①	第 12 回： 遊びのなかで育つ人とのかかわり
第 5 回： 「人間関係」のねらいと内容 ②	第 13 回： 人とのかかわりを育てる保育
第 6 回： 「人間関係」のねらいと内容 ③	第 14 回： 人とのかかわりを育てる保育者の役割
第 7 回： 「人間関係」のねらいと内容 ④	第 15 回： まとめ・授業内
第 8 回： ビデオ視聴「葛藤体験について」 討議	

テキスト： 森上史朗・小林紀子・田辺英則編『保育内容「人間関係」』ミネルヴァ書房

参 考 書： 文部科学省『幼稚園教育要領解説』、厚生労働省『保育所保育指針』

評価方法・評価基準：レポート、提出物、試験等で総合的に評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○	○	○			60
小テスト・ 授業内レポート							30
授業態度・ 授業への参加度							評価に加えず
受講者の発表							評価に加えず
演 習							評価に加えず
出 席							評価に加えず
その他							10

履修上の注意：

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
環境指導法 (Nat. and So. Env. Edu. Meth.)		照屋 建太

### 授業の到達目標及びテーマ

保育活動における環境の意義について学ぶ。人との話し合いを通して他人の考え方を身につけ、理解する。加えて指導計画案の作成を行う。数・量・形の指導方法についても考え、学習する。学生自身、自ら自然に親しむ。

### 授業の概要

この講義では、保育内容領域の「環境」を中心にその意義・内容・指導計画の考え方を学ぶ。環境に興味関心を持ち、関わっていくような環境について意図的、計画的に構成することを学ぶ。また、身のまわりの環境に興味を持ち、疑問について考える力を養う。

### 授 業 計 画

第 1 回： 講義概要説明、グループ分け	第 9 回： 物的環境としての室内環境、 物的環境としての屋外環境
第 2 回： 子どもと環境	第 10 回： 子どもの安全環境、 子どもと情報環境
第 3 回： 保育の基本と領域「環境」の 位置づけ、領域「環境」におけ る指導の観点	第 11 回： 飼育動物とのかかわりと保育、 栽培植物とのかかわりと保育
第 4 回： グループ活動（環境観察）	第 12 回： 地域社会とのかかわりと保育、 子どもとの感性の掘り起こしと 保育者の役割
第 5 回： 好奇心・探究心の育み	第 13 回： 指導計画案①（週案の作成）
第 6 回： 科学的認識力の育み、 数・量・形の指導法	第 14 回： 指導計画案②（週案の作成）
第 7 回： ビオトープについて	第 15 回： まとめ・授業内試験
第 8 回： 人的環境としての仲間・ 保育者とのかかわり	

講義の始めに身近な生き物の紹介を行います。

テキスト： 嶋崎博嗣ほか『保育士養成のための必須科目シリーズ保育内容（環境）』一藝社  
沖縄生物教育研究会 編『沖縄の生きものたち』新星出版  
その他、必要に応じてプリントを配る。

参 考 書： その他、必要に応じて紹介する。

### 評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態 度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○					50
小テスト・ 授業内レポート	○	○					5
授業態度・ 授業への参加度			○	○			5
受講者の発表			○		○		5
演 習					○		5
出 席			○	○			30
その他							

履修上の注意：講義の前には、必ずテキストに目を通して下さい。

レポートの提出は、様式と期日を必ず守ること。遅れた場合は受け取らない。

欠席した場合は、講義内容に関するテーマを自ら設定し、レポート(2000字)を提出すること。

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
言葉指導法 (Teach.Meth.of Children's Sp.Dev.)		今 秀子

授業の到達目標及びテーマ

- 知識理解：豊かな言葉を育む保育者の役割について説明できる。  
 思考判断：言葉と保育の展開（発達及び幼児理解）について事例を通して指摘できる  
 関心意欲：児童文化財の特徴、役割について理解し意欲的に実践に向けて取り組む。  
 態度：自ら感性を磨き言葉による表現力を身につける。

授業の概要

幼児の言葉で学んだ乳幼児の言葉の発達、保育所保育指針や幼稚園教育要領を踏襲し、幼児の言葉を豊かにする指導の方法について実技を通して学ぶ。乳幼児理解と言葉は不可分の関係で、保育の実践において「生活の中の言葉と幼児理解」「具体的な場面や状況に応じた援助の在り方」「幼児の言葉を豊かにする児童文化財の活用」など、実技や事例を通して日本語の美しさや言葉の正しさ、豊かさを学んでいく。

授業計画

第 1 回：	オリエンテーション・授業内容・方法・実技・課題などについて共通理解	第 9 回：	発達の中の言葉 ①聞くこと、話すこと、思いの伝えあい
第 2 回：	保育の基本と「領域 言葉」・体験の充実と言葉	第 10 回：	②思考すること、想像すること
第 3 回：	幼児理解と言葉・生活の中の言葉 言葉を育てる保育者の関わり	第 11 回：	③音声言語から文字言語へ。 生活の中の文字
第 4 回：	保育者の言葉表現	第 12 回：	④保育と文字の関わりと実技
第 5 回：	言葉をゆたかにする児童文化財	第 13 回：	仲間を育てる「ごっこ、劇遊び」理解 ①素材検討、劇作り
第 6 回：	保育者と絵本（科学絵本、生活絵本、物語絵本等） ①本のメッセージを読み取る （グループディスカッション）	第 14 回：	②グループ発表（劇遊び）と検証
第 7 回：	②保育と人形のかかわり	第 15 回：	まとめ
第 8 回：	③紙芝居の成り立ちと基礎的理解、使い方・実技		

テキスト： 岡田明『『新訂』子どもと言葉』萌文書林

参考書： 厚生省「保育所保育指針」文部科学省「幼稚園教育要領」その他講義で提示

評価方法・評価基準： 課題提出「人形制作と発表」「グループ劇企画発表」期末テスト・出席、態度などによる総合評価

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (期末試験)	○	○		○			40
課題、実技、演習 への取り組み	○		○	○			30
授業態度・ 授業への参加度	○		○		○		10
受講者の発表			○	○	○		10
演習			○	○			5
出席							5
その他							

履修上の注意： 保育者としての自覚に基づき自身が豊かな言葉で話せる様にする

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
音楽表現指導法 (Teach.Meth.of Mu.Exp.of Children)		大山 伸子

授業の到達目標及びテーマ：音楽表現の基礎技能を獲得し、保育現場で活用しうる音楽の教材研究等に意欲を持って取り組めるようにする。

授業の概要：身体を通して音楽を感じ、考え、表現するダルクロワーズの「リトミック教育法」に基づいて、音楽表現に必要な技能とその方法論を学ぶ。また、保育現場で活用しうる、手遊び、歌遊び、身体創作表現など、具体的な教材活動を通して、音楽を発展的、総合的に創意工夫できるようにする。

授 業 計 画

第 1 回： オリエンテーション	第 9 回： 3 拍子（簡易楽器や教具を使って）
第 2 回： リトミック音楽教育について	第 10 回： 教材研究① (手遊び歌、童謡等を題材にして)
第 3 回： 拍の理解。基礎リズムのリズム打ちとステップ(歩く、走る、スキップ)	第 11 回： 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」における『表現』領域について
第 4 回： リズムパターンとフレージング	第 12 回： 教材研究② (手遊び歌、童謡等を題材にして)
第 5 回： リズムパターンとポリリズム	第 13 回： ボディパーカッション
第 6 回： 幼児曲を題材にした創作表現	第 14 回： 教材研究③ (テーマに即した題材に基づいて)
第 7 回： イメージによる身体表現	第 15 回： まとめ
第 8 回： 拍子感とアナクルーシスについて	

※手遊び、歌遊び、身体創作等は、その都度、課題に即した教材内容で行う。

テキスト： 音楽教育研究会編 『幼児の音楽教育』 音楽教育研究会協会  
コピー資料、その他。

参 考 書： 「幼稚園教育要領」 「保育所保育指針」

評価方法・評価基準：実技テスト及び授業における課題評価

- ① グループ課題による評価—幼児曲を創作表現及び、基礎リズムや拍子感を生かした教材研究
- ② 個人課題による評価—リズム唱、リズム打ち、リズムステップ、ポリリズムの実技及びレポート課題
- ③ 出席状況—授業においてグループ発表による評価が数回ある
- ④ 授業態度—①～④を総合的に評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)					20		20
小テスト・ 授業内レポート	5		5				10
授業態度・ 授業への参加度				10			10
受講者の発表					20		20
演 習					20		20
出 席				10	10		20
その他							

履修上の注意：出席日数は評価に反映されるので怠りなく受講すること。  
軽装、運動シューズで受講すること。

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
造形指導法 (Teach.Me.of Fo. Art for Children)		吉村 壮明

### 授業の到達目標及びテーマ

造形指導法においては、まず学生達には小中学、高校の図工や美術のカリキュラム化された表現活動との違い、すなわち未分化で総合的な表現活動であるという点を理解し、その上で自己表現ではなく、子どもの立場に立った表現活動を考える保育・教育者としての端緒となる授業としたい。その為、前半では平面の造形遊びを中心とした演習で学生の固定化した美術意識や苦手意識を払拭することを目的とし、後半で子どもと表現について考え、保育や幼児教育における造形の指導とは何かを実感してもらう事をテーマとする。

### 授業の概要

基礎的事項として子どもの描画の発達段階を理解し、その後、平面を中心とした演習を行う。最後はそれらの体験をもとにテーマを決め、平面作品での制作を行う。また幼児造形教育の歴史や問題について触れる。

### 授業計画

第1回：	オリエンテーション-造形指導法の目的と内容について -
第2回：	子どもの描画の発達段階について- V. ローウェンフェルドの発達段階を中心として-
第3回：	ルース・フェゾン・ショウのフィンガーペインティング -非視覚型の触覚的アプローチやメス・ペインティングの意義 -
第4回：	環境を写し取る-フロッタージュとその具体的展開 -
第5回：	偶然性の色彩遊び (1) -デカルコマニーとその心理的側面-
第6回：	偶然性の色彩遊び (2) -マープリングとその具体的展開-
第7回：	周囲にあるイメージで遊んでみる (1) -ファッション雑誌を素材としたコラージュによるイメージ再構築 -

第8回：	周囲にあるイメージで遊んでみる (2) -ファッション雑誌を素材としたコラージュによるイメージ再構築 -
第9回：	子どもの特性を児童文学やアニメーションから考える
第10回：	子どもの特性を映画から考える -「子ども」という表現 -
第11回：	複数の技法を使用した平面表現 (1) -数々の平面による造形遊びの紹介とテーマ設定 -
第12回：	複数の技法を使用した平面表現 (2) -テーマを設定した平面作品の制作-
第13回：	幼児の造形教育思想の歴史 -ルソーからチゼック、デュイの思想と DBAE (Discipline Based Art Education)、レジオアプローチの動向について -
第14回：	幼児の表現教育の問題 -法則化運動・色彩描画診断法の問題を中心として -
第15回：	課題とまとめ

テキスト： テキストは使用せず、毎回の演習時にプリントを作成して配布

参考書：川俣正他編著『セルフ・エデュケーション時代』（フィルムアート社、2001）、野村知子他編著『幼児の造形』（保育出版社、2002）、山木朝彦他編著『美術鑑賞宣言』（日本文教出版、2003）、Practica ネットワーク編『アートという戦場』（フィルムアート社、2005）、福田隆真・福本謹一・茂木一司編著『新版・美術科教育の基礎知識』（建帛社、2010）、山木朝彦編著『図工・美術教育を学ぶ』（建帛社、2011）

### 評価方法・評価基準：作品および提出物

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○						20
授業態度・ 授業への参加度				○			20
受講者の発表		○					20
演習					○		20
出席			○				20
その他							100

履修上の注意：演習ですので、各自で準備物が必要です。詳しくはオリエンテーション時に説明します。



授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
音楽Ⅰ (Music I)		糸洲のぶ子・神谷智子 古謝麻耶子・津田涼子

授業の到達目標及びテーマ：保育者として必要な音楽の基礎技能（ピアノ・楽典・ソルフェージュ）を習得し、全課題曲の終了を目指す。保育現場で音楽の能力が発揮できるよう自己研鑽する。

授業の概要：幼児の音楽的感性を育てるために、保育者として必要な音楽の基礎技能を修得する。ピアノ奏法を主として、楽典やソルフェージュなど基礎的な学習と運動して、ピアノの演奏能力の向上をはかる。授業形態は、一斉指導と個別指導を導入し、「教則本」では運指法、読譜等の初歩的なスキルを獲得しながら、簡単な童謡やマーチが弾けるようにする。また、「音楽Ⅱ」に継続して学習できるように、基本的な音楽理論の理解とピアノ奏法の習熟を目指す（授業は予習型）。

### 授業計画

#### 1. 課題

- (1) 楽典 ①音域 ②音程 ③音階 ④調と調号 ⑤和音  
(2) ピアノ課題曲 ①基礎 教則本『大学ピアノ教本』No.65 程度 必修課題曲  
No. 1、3、4、5、9、11、13、17、21、24、25、27、30、32、33、37、40、43、45、49、  
51、53、56、60、63、65、他任意の曲  
②幼児曲 必修課題曲（とんぼのめがね・思い出のアルバム）  
③マーチ 必修課題曲（かけあしマーチ・手をたたきましょう・ピーマーチ）  
④讃美歌 必修課題曲（誰が作ったの）等  
⑤任意の曲

#### 2. 授業計画

第1回：	オリエンテーション及びピアノ奏法のウォーミングアップ
第2回：	『大学ピアノ教本』No.1～4 (No.1～37) はグループレッスンで進める
第3回：	No.5、9、11、及びハ長調の音階（1オクターヴ）、調名、1度、5度の和音（I、V）
第4回：	No.13、17、21、及び属7度の和音（V <sub>7</sub> ）
第5回：	No.24、25、及び4度の和音（IV）
第6回：	No.27、30、32、及びヘ長調の音階、調名（1オクターヴ）、及び1度、4、5度の和音（I、IV、V、V <sub>7</sub> ）
第7回：	No.33、37、及びト長調の音階、二長調の音階（1オクターヴ）及び調名
第8回：	No.40～（No.40～No.65）は個人レッスン（学生の習熟度によって課題達成曲が異なる）音階・調名（ハ・ト・ニ・ヘ）、及び和音（I・IV・V・V <sub>7</sub> ）のまとめ

第9回：	No.40～（No.40～No.65）個人レッスン、及びとんぼのめがね(幼児曲)
第10回：	No.40～（No.40～No.65）、ジャバマーチ（個人により曲の進度が異なる）
第11回：	No.40～（No.40～No.65）、思い出のアルバム(幼児曲)（個人により曲の進度が異なる）
第12回：	No.40～（No.40～No.65）、みんなでそろって(幼児曲)（個人により曲の進度が異なる）
第13回：	No.40～（No.40～No.65）、ジョンブラズボディ（個人により曲の進度が異なる）
第14回：	讃美歌（誰が作ったの）、任意の曲
第15回：	『大学ピアノ教本』、童謡、マーチ、讃美歌、任意の曲のまとめ

### テキスト：

- ・ 大学音楽教育研究グループ編著『大学ピアノ教本』教育芸術社
- ・ 一宮道子編『ピアノマーチ集』全音楽譜出版社
- ・ 音楽教育研究会編『幼児の音楽教育』音楽教育研究会
- ・ コピー資料

評価方法・評価基準：①出席状況 ②授業態度 ③実技テスト ④楽典の簡単な筆記テスト。

※上記①～④を総合的に勘案して評価。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)					20		20
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度・ 授業への参加度			10	10			20
受講者の発表					10		10
演習	10				20		30
出席				20			20
その他							

### 履修上の注意：

毎時間レッスンカード票に自己の受講状況や進度を記録し提出する。毎時間与えられた課題曲を事前レッスン(自己学習)して授業に臨むこと。授業は怠りなく出席し、事前に学習した曲の指導を受ける。日々の練習の積み重ねが最善の上達方法であることを認識する。

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
音楽Ⅱ (Music II)		糸洲のぶ子・神谷智子 古謝麻耶子・津田涼子

授業の到達目標及びテーマ：音楽Ⅰで習得した学習成果を踏まえ、保育現場で活用度の高い、幼児曲やマーチ曲がスムーズに演奏できるスキルと表現法の獲得を目指す。全課題の修得を目標にする。

授業の概要：「音楽Ⅰ」の基礎的な学習を踏まえ、幼児教育現場で活用度の高い童謡やマーチ等の幼児曲を中心に学習する。『大学ピアノ教本』の学習は、読譜力や奏法の技能がさらに高められ、童謡、マーチの学習は幼稚園、保育所における生活の歌、季節や行事の歌、遊び歌など、保育現場で役立つ幼児曲の弾き歌いが数多くできるようする。(弾き歌い)

授業形態は、習熟度に応じ個別指導を主として、実践力が身につくより高いピアノ奏法と歌唱法を習得する(授業は予習型)。

## 授 業 計 画

### 1. 課題

- (1) 楽典 ①移調譜 ②移調奏 ③和音 ④音階 ⑤調と調号 ⑥その他
- (2) ピアノ課題曲 ①基礎 教則本『大学ピアノ教本』No66~94のうち11曲程度  
No.66、67、68、70、71、74、75、79、81、93、94、他 任意  
②幼児曲 必修課題曲(おはようのうた・おかえりのうた・たんじょう日・たなばたさま・はをみがきましょう)  
③マーチ曲 必修課題曲(おお牧場はみどり・こどものマーチ・ブルーセス マーチ)  
④讃美歌(お星がひかる)・任意の曲等

### 2. 授業計画

第1回：	オリエンテーション(個別レッスンなので習熟度によって進度が異なる)
第2回：	『大学ピアノ教本』No.66~94(進度により課題曲)
第3回：	No.67、幼児曲「おはようのうた」(幼児曲は順不同・達成度別の進度)
第4回：	No.68、「おかえりのうた」
第5回：	No.70、「たんじょう日」
第6回：	No.71、「たなばたさま」
第7回：	No.74、「はをみがきましょう」
第8回：	No.75、マーチ「おお牧場はみどり」(マーチは順不同・達成度別の進度)

第9回：	No.79、「こどものマーチ」
第10回：	No.81、「ブルーセスマーチ」
第11回：	No.93、賛美歌「お星がひかる」
第12回：	No.94、任意の曲(幼児曲・マーチ)
第13回：	任意の曲(幼児曲・マーチ)
第14回：	任意の曲(幼児曲・マーチ)
第15回：	任意の曲、(大学ピアノ教本・幼児曲・マーチ)、及び全体のまとめ
※『大学ピアノ教本』は目安であり、進度は習熟度別である。	

テキスト：・学音楽教育研究グループ編著『大学ピアノ教本』教育芸術社  
・教育研究会編『幼児の音楽教育』音楽教育研究会  
・一宮道子編『ピアノマーチ』教育芸術社  
・コピー資料

評価方法・評価基準：①出席状況 ②授業態度 ③ピアノ実技テスト、①~③を総合的に評価する。

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)						20		20
小テスト・ 授業内レポート								
授業態度・ 授業への参加度				10	10			20
受講者の発表						10		10
演習	10					20		30
出席					20			20
その他								

### 履修上の注意：

毎時間、レッスンカード票に自己の授業状況や進度を記録し提出する  
毎時間与えられた課題曲を、事前レッスン(自己学習)して、授業に臨むこと  
授業は怠りなく出席し、事前に学習した曲の指導を受ける。日々の練習の積み重ねが上達方法であることを認識する

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
図画工作 I (Art and Craft Education I)		吉村 壮明

授業の到達目標及びテーマ

図画工作 I では素材体験を数多く行う事を目的とする。したがって通常の素材から日用品食材まで子どもを取り巻く様々なマテリアルを演習で使用し、「子どもの表現」という概念の幅を広げていく。また同時に社会における子どもの状況を表現された映像や実際の玩具、印刷物などから子どもを取り巻く表現の問題、および我々が使用する素材の選択や理解にまで幅を広げていく。

授業の概要

子どもの表現を理解し、指導する上で必要な基本的感性や表現力を、様々な造形作品の制作と鑑賞を通じて身につける。特にこの図画工作 I では保育士・幼稚園教諭としての実技的スキルの向上を目的とし、具体的な図画工作の活動案の提供を中心とする。

授業計画

第 1 回 :	オリエンテーション-図画工作 I の目的と内容について -	第 9 回 :	幼児の特性 (みたとと行為) に着目した表現活動
第 2 回 :	表現の発達段階 (復習) にそった造形あそびの実習における展開	第 10 回 :	実習時の活動案の検討と保育指導案の具体例
第 3 回 :	紙を使用した表現活動とその展開	第 11 回 :	グローバリゼーションと子どもと表現 子どもと映像表現 -
第 4 回 :	水や氷、お湯 (物質変化による造形) による表現活動とその展開	第 12 回 :	グローバリゼーションと子どもと表現 「子ども」という表現 -
第 5 回 :	食材を使用した表現活動とその展開	第 13 回 :	グローバリゼーションと数々の表現素材をめぐる問題 -持続可能な社会における表現教育での材料選択 -
第 6 回 :	動きの観点からの簡単な玩具作り	第 14 回 :	課題発表-現代社会、子ども、表現という三つの視点 -
第 7 回 :	風の観点からの簡単な玩具作り	第 15 回 :	課題とまとめ
第 8 回 :	色の観点からの簡単な玩具作り		

テキスト： テキストは使用せず、毎回の演習時にプリントを作成して配布

参考書：川俣正他編著『セルフ・エデュケーション時代』（フィルムアート社、2001）、野村知子他編著『幼児の造形』（保育出版社、2002）、山木朝彦他編著『美術鑑賞宣言』（日本文教出版、2003）、Practica ネットワーク編『アートという戦場』（フィルムアート社、2005）、福田隆真・福本謹一・茂木一司編著『新版・美術科教育の基礎知識』（建帛社、2010）、山木朝彦編著『図工・美術教育を学ぶ』（建帛社、2011）

評価方法・評価基準：作品および提出物

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○						20
授業態度・ 授業への参加度		○		○			20
受講者の発表							20
演習					○		20
出席			○				20
その他							100

履修上の注意：

授業科目名	1単位 (0-2)	担当教員
図画工作Ⅱ (Art and Craft Education II)		吉村 壮明

授業の到達目標及びテーマ

子どもの特性の一つである「みため」のイマジナリーな側面を理解し、それを日常と結びつけた立体制作を行う。さらに共同での活動の体験をし、最終的には演習を通して「表現」そのものの意味について体験的に理解する。

授業の概要

図画工作Ⅰの基礎的な活動をふまえ、この図画工作Ⅱでは、より深く子どもの表現を理解するために、様々な造形作品の制作と鑑賞を行い、保育者として必要な実践力と視野を身につける。具体的には現場でのグループ活動や年間計画をイメージした造形活動を行い、さらに根源的に子どもと表現について考える表現活動を行う。

授 業 計 画

第1回： オリエンテーション -図画工作Ⅱの目的と内容について -	第9回： 行事と壁面構成 -行事の視覚伝達 (クリスマス壁面作り) -
第2回： 雑材の「みため」による立体表現 (1)-雑材の収集とその造形性-	第10回： クリスマスのカード制作(1)
第3回： 雑材の「みため」による立体表現 (2)-制作活動-	第11回： クリスマスのカード制作(2)
第4回： 雑材の「みため」による立体表現 (3)-制作活動および提出-	第12回： 日常を「異化」する表現活動(1) -異化とはなにか-
第5回： 共同制作(1) -その意義と特性-	第13回： 日常を「異化」する表現活動(2) -グループおよび個人発表-
第6回： 共同制作(2) -グループで長い紙に描く実践 -	第14回： 日常を「異化」する表現活動(3) -発表映像鑑賞-
第7回： 共同制作(3) -グループで空間を飾る実践 -	第15回： 課題とまとめ
第8回： 色彩と壁面構成 -線と色と感情-	

テキスト： テキストは使用せず、毎回の演習時にプリントを作成して配布

参 考 書： 川俣正他編著『セルフ・エデュケーション時代』(フィルムアート社, 2001)、野村知子他編著『幼児の造形』(保育出版社, 2002)、山木朝彦他編著『美術鑑賞宣言』(日本文教出版, 2003)、Practicaネットワーク編『アートという戦場』(フィルムアート社, 2005)、福田隆真・福本謹一・茂木一司編著『新版・美術科教育の基礎知識』(建帛社, 2010)、山木朝彦編著『図工・美術教育を学ぶ』(建帛社, 2011)

評価方法・評価基準：作品および提出物

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○						20
授業態度・ 授業への参加度				○			20
受講者の発表		○					20
演 習					○		20
出 席			○				20
その他							100

履修上の注意：演習ですので、各自で準備物が必要です。詳しくはオリエンテーション時に説明します

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
幼児体育 I (Gymnastics for Children I)		山城 眞紀子

授業の到達目標及びテーマ  
 幼児期にふさわしい運動遊びの実際を通して、子ども理解を図り、保育者の役割を学ぶ。

授業の概要  
 指導案を作成し模擬保育の方法を中心に、運動遊びの教材や環境の構成、展開の方法、指導上の留意点を学習する。

授 業 計 画

第 1 回：	学習計画・幼児期の運動特性、指導案作成と分担	第 9 回：	ラジオ体操、はとぽっぽ体操、他
第 2 回：	・保育者に必要な力「体力」 ・集団行動 ・ゲーム	第 10 回：	ボール遊び
第 3 回：	フォークダンス	第 11 回：	縄遊び
第 4 回：	ゲーム（1）	第 12 回：	かけっこ遊び、とびっこ遊び
第 5 回：	ゲーム（2）	第 13 回：	大型遊具遊び（1）（マット、跳び箱、平均台、鉄棒、巧技台）
第 6 回：	体操遊び、かくらべ遊び、じゃれつき遊び（1）	第 14 回：	大型遊具遊び（2）（マット、跳び箱、平均台、鉄棒、巧技台）
第 7 回：	身近な素材で運動遊び	第 15 回：	まとめ
第 8 回：	ストーリーゲーム （お話から運動遊びへ）	※都合により内容や順序を変更することがある。	

テキスト： 特に指定しない 随時資料を配付、VTR

参 考 書： 特に指定しない

評価方法・評価基準：出席状況、課題発表、実技テスト、レポートなどを総合して行う。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価							
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度・ 授業への参加度	○			○			30
受講者の発表							
演 習	○		○		○		50
出 席			○				10
その他						○	10

履修上の注意：授業内容にかかる準備・片付け、服装、安全に留意すること。

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
幼児体育Ⅱ (Gymnastics for Children II)		山城 眞紀子

授業の到達目標及びテーマ

1. 身体の動きや作品のまとめ方など基礎的な知識や技能を習得、さらに身体表現に結びつける遊びの展開についても理解する。
2. 戸外で積極的に遊ぶ意義や方法を理解する。

授業の概要

1. 不得手な運動技能の習得。
2. わらべ歌、伝承遊びの習得。
3. 幼児の曲や沖縄のリズムで動きや作品構成の習得。

授 業 計 画

第 1 回 :	学習計画、実習を通しての幼児の運動と環境 保育者に必要な力「表現力」
第 2 回 :	課題研究① ジャンケン遊び
第 3 回 :	課題研究② 縄あそび
第 4 回 :	課題研究③ かけっこ・とびっこ
第 5 回 :	歩け歩け園外保育の企画と展開
第 6 回 :	公園でミニ運動会の企画と展開
第 7 回 :	わらべ歌で遊ぼう
第 8 回 :	伝承遊びとトランポリン (1)

第 9 回 :	伝承遊びとトランポリン (2)
第 10 回 :	沖縄のリズムと動きで遊ぼう
第 11 回 :	身体表現で遊ぼう (1)
第 12 回 :	身体表現で遊ぼう (2)
第 13 回 :	作品づくり (1)
第 14 回 :	作品づくり (2)
第 15 回 :	作品づくり (3)・まとめ

\* 都合により、内容や順序を変更することがある。

テキスト： 特に指定しない。 随時資料配布

参 考 書： 特に指定しない。

評価方法・評価基準：出席状況、発表、実技テスト、レポートなどを総合して行う。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度・ 授業への参加度				○			30
受講者の発表					○		10
演 習	○		○		○		50
出 席			○			○	10
その他							

履修上の注意：授業内容にかかる準備・片付け、服装、安全に留意すること。

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
幼児の生活 (Life Skill)		島袋 浩子

授業の到達目標及びテーマ  
『私達の暮しと保育』

- ・ 社会人として、保育者としてのマナーを身につける。
- ・ 子どもの生活習慣の自立について学ぶ。

- ・ 知識理解：幼児期の基本的な生活習慣について理解する。
- ・ 関心意欲：乳幼児期の発達と生活技能について関心をもつ。
- ・ 態度：自らの生活を振り返り、自身の資質を高める。

授業の概要  
子ども自身が、人間として生きる力の基礎を育むための指導者としての在り方を学ぶ。  
社会人としてのマナー・保育者としてのマナー・保育者としての技能・子どもの生活技能などについて理論や実技、事例を通して学んでいく。

### 授 業 計 画

第 1 回：	講義概要説明 グループ分け	第 9 回：	保育者としての技能⑤ ・ 学級だよりの作成
第 2 回：	子どもの生活技能「基本的生活習慣」①食事の習慣	第 10 回：	子どもの生活技能「基本的生活習慣」④着脱衣の習慣
第 3 回：	子どもの生活技能「基本的生活習慣」②睡眠の習慣	第 11 回：	子どもの生活技能「基本的生活習慣」⑤清潔の習慣
第 4 回：	子どもの生活技能「基本的生活習慣」③排泄の習慣	第 12 回：	子どもの生活技能「社会的生活習慣」
第 5 回：	保育者としての技能① ・ はさみと箸の持ち方	第 13 回：	保育者としての技能⑥ ・ 折り紙 その1
第 6 回：	保育者としての技能② ・ 常識マナー、保育現場での心構え	第 14 回：	保育者としての技能⑦ ・ 折り紙 その2
第 7 回：	保育者としての技能③ ・ 園だより、学級だよりの説明	第 15 回：	まとめ・授業内試験
第 8 回：	保育者としての技能④ ・ 園だよりの作成		

テキスト：谷田貝公昭 監修『6歳までのしつけと子どもの自立』合同出版

参 考 書：厚生省「保育所保育指針」文部科学省「幼稚園教育要領」  
 子どもの生活科学研究会 編『子どもとマスターする49の生活技術』合同出版  
 子どもの生活科学研究会 編『子どもとマスターする49の生活技術2』合同出版  
 子どもの生活科学研究会 編『子どもとマスターする49の生活技術3』合同出版  
 その他、必要に応じて紹介する。

### 評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○		○			40
小テスト・ 授業内レポート	○		○	○			20
授業態度・ 授業への参加度	○		○	○	○		10
受講者の発表	○		○	○	○		10
演 習							10
出 席							10
その他							

履修上の注意：課題の提出は、様式と期限を守ること。

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
飼育栽培 (Feeding and Growing)		照屋 建太

### 授業の到達目標及びテーマ

この講義では飼育栽培を行うことによって自然と親しみ、生き物の「命」の大切さ、不思議さについて学ぶ。保育活動の中で日常化されている飼育栽培の基本について学び、実践し習得する。また、生き物の「命」に対する責任感を持つ。

### 授業の概要

“生命”への慈しみを育てる保育が強調される中、保育者は小動物・植物への関わりが十分とは言えない。それに付け加え現代社会の家族形態は核家族化し、アパートなど集合住宅が増え自宅で生き物の飼育栽培が困難な状況である場合が多い。また、生き物嫌いや飼育の手間がかかるという意見が増えており、子どもたちは生物の命の尊さを知る機会が少なくなっている。そこで、実際に生き物の飼育活動を行う。

### 授業計画

第 1 回： 講義概要説明 グループ分け	第 9 回： 飼育栽培実習⑤
第 2 回： 基礎学習①（植物）、 レポートの書き方	第 10 回： 飼育栽培実習⑥
第 3 回： 飼育栽培実習①	第 11 回： 基礎学習④（土壌）
第 4 回： 飼育栽培実習②	第 12 回： 飼育栽培実習⑦
第 5 回： 基礎学習②（動物）	第 13 回： レポート作成①
第 6 回： 飼育栽培実習③	第 14 回： レポート作成②
第 7 回： 飼育栽培実習④	第 15 回： まとめ・授業内試験
第 8 回： 基礎学習③（気象）	

テキスト：沖縄生物教育研究会 編『沖縄の生きものたち』新星出版  
その他、必要に応じてプリントを配る。

参考書：岡田 要 監修『完全図解 生きものの飼ひ方全書』東陽出版  
有沢 重雄『飼育栽培図鑑 はじめて育てる・自分で育てる』福音館書店  
その他、必要に応じて紹介する。

### 評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○					10
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○		○		15
授業態度・ 授業への参加度			○	○			10
受講者の発表			○	○	○		15
演習							
出席			○	○			30
その他				○			20

履修上の注意：講義には汚れても良い服装、動きやすい服装で参加すること。  
まとめの提出は、様式と期限を必ず守ること。遅れた場合は受け取らない。  
夏期休暇や冬期休暇、春期休暇中も責任を持って生き物の世話をすること。  
欠席した場合は、講義内容に関するテーマを自ら設定し、レポート(2000字)を提出すること。



授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
幼児の言葉 (Methods of Language Development)		大湾 由美子

授業の到達目標及びテーマ

- 知識理解：乳幼児がことばを獲得していく過程について説明できる  
 保育者の基本的な姿勢や援助のあり方について事例を踏まえて説明できる。
- 思考判断：言葉を豊かにする教材を選択できる
- 関心意欲：ことばの機能を理解しことばを育む環境について関心を持つ。
- 態度：豊かなことばの感性と表現力を身につける

授業の概要：

乳幼児期は言葉獲得の重要な時期であり、ことばは生活の中で獲得される為幼児の生活を  
 知り、発達の筋道を学ぶことは幼児の発達を保障する保育者として最も肝要である。本授業では  
 「ことばの発達過程」「生活の中のことば」「思いの伝えあい（互いの関係性）」等を軸に乳幼児  
 のことばを育てる環境やことばの育ちを助ける保育者の関わりについて理論学習や実践的な  
 基礎技術について学ぶ。

授 業 計 画

第 1 回：	オリエンテーション 授業の概要 方法 提出物などについて理解 ことばをめぐるワークショップ・保育と言葉	第 9 回：	それぞれの実際の記録を基に検討しあい発達と大人の関わりについて事例から学び考える (レポート提出)
第 2 回：	ことばとは何か言葉の機能、子育てとことば 乳幼児期に育む言葉発達の基礎	第 10 回：	ことばを育てる人的環境 保育者の関わり、役割
第 3 回：	保育内容「言葉」のめざすもの 領域「言葉」と他の領域との関係	第 11 回：	幼稚園・保育所での言葉の生活 仲間とのコミュニケーション
第 4 回：	乳幼児の発達とことば 映像をみてことばの発達について理解する	第 12 回：	幼児理解のことば 実際の場面での事例を基に話しあう
第 5 回：	映像から読み取ったことを話しあい、 レポート提出	第 13 回：	ことばを育てる児童文化財 ことばをゆたかにする教材の選択
第 6 回：	ことばの発達の道筋、(ことばの獲得) 言葉以前のことは	第 14 回：	保育の中の絵本、素話 指人形 指人形又は素話いずれかを発表する
第 7 回：	〃 話しことばから書き言葉へ	第 15 回	まとめ、授業内試験
第 8 回：	子どもが言葉を使い始めるとき (課題) 実際の子どものことばを記録する		*「手遊び・ことばあそび」等実技を折にふれ行う *素話 指人形など作成、発表する。 絵本の読み取り

テキスト：保育内容言葉 小田豊著 北大路書房 ・幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説書

評価方法・評価基準：課題提出 絵本カード提出 期末テスト・出席、態度による総合評価

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (期末試験)	○	○		○			30
課題、実技、演習への 取り組み	○		○	○			30
授業態度・ 授業への参加度	○		○	○			15
受講者の発表			○	○			10
演 習	○		○	○			10
出 席							5
その他							

履修上の注意：提出物は期限厳守、実技は必須・保育科としての自覚に基づき自身言葉をが豊かに話せる様に努める  
 ：絵本カード提出必須授業期間内 ：素話又は指人形作成発表

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
保育者論 (Nursery Teachers)		赤嶺 優子

授業の到達目標及びテーマ

知識理解：保育者の役割と倫理、制度的位置づけについて理解をする。  
 関心意欲：保育者の専門職的成長について関心や意欲を示し、自己の成長に繋げるようにする。  
 思考判断：保育者の専門性について考察し、理解する。  
 態度：保育者の協働について理解する。

授業の概要

保育者の役割や倫理、制度的位置づけについて理解する。保育の知識を深め、保育者の役割、意義、省察、専門性について理解する。保育・教育問題、保育者の協働についても関心を持ち、保育者の専門職的成長について深める。

授業計画

第1回： 保育者になるということ	第9回： 保育・教育問題
第2回： 保育者の役割と倫理	第10回： 討議：「保育者の専門職的成長について」
第3回： 保育者の制度的位置づけ	第11回： 討議：保育者の役割と専門性（ビデオ視聴）
第4回： 保育者の専門性と省察	第12回： 特別講義
第5回： 保育の省察	第13回： 保育者の役割と専門性(協同研究) ①
第6回： 保育・教育課程による保育の展開と自己評価	第14回： 保育者の役割と専門性(協同研究) ②
第7回： 保育者の協働	第15回： まとめ・授業内
第8回： 保育の現状と課題	

テキスト： 『保育者論』

参考書： 文部科学省『幼稚園教育要領解説』2008年  
 全国社会福祉協議会『新保育所保育指針を読む[解説・資料・実践]2008年

評価方法・評価基準：出席状況・課題・提出物・討議・発表等を総合的に評価。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○	○				60
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○				30
授業態度・ 授業への参加度							評価に加えず
受講者の発表							評価に加えず
演習							評価に加えず
出席				○			10
その他							0

履修上の注意：特別講義は、日程の変更もあり得る。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
保育課程総論 (Curriculum for Child Care)		赤嶺 優子

### 授業の到達目標及びテーマ

- 知識理解：保育課程・教育課程の意義と役割を理解し、理論と実践の関係の知識を深める。  
 保育課程・教育課程の編成と指導計画の作成について理解する。
- 関心意欲：保育内容と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する。
- 思考判断：幼児の主体性に基づいた保育内容、環境構成、展開、指導法を構成することができる。
- 態度：計画・実践・省察・評価・改善等の課程の全体構造を能動的にとらえて理解する。

### 授業の概要

保育課程、教育課程、保育計画の意義及び編成の方法について知る。幼稚園や保育所（園）の保育内容や方法を理解する。保育の基本を理解した上で、保育内容や環境構成、保育者の援助について考え保育実践における指導日案、細案などの立案の仕方を身につける。

### 授業計画

第1回： オリエンテーション・保育の基本・他	第9回： 保育の反省と自己評価
第2回： 保育課程・教育課程と指導計画の意義	第10回： 幼稚園教育の基本と教育課程の編成
第3回： 保育所指針と幼稚園教育要領	第11回： 保育計画の作成（ビデオ視聴：細案）
第4回： 保育課程と指導計画の編成方法	第12回： 保育計画作成の実践「細案」 ①
第5回： 保育計画の作成（ビデオ視聴）	第13回： 保育計画作成の実践「細案」 ②
第6回： 領域と保育内容、環境構成	第14回： 計画、実践、省察、評価、改善の過程の循環による保育の質の向上
第7回： 保育計画の作成と留意点	第15回： まとめ・授業内
第8回： 保育の省察と記録	

テキスト： 太田 悦生 編 2010『新・保育内容総論』第2版（株）みらい

参考書： 文部科学省『幼稚園教育要領解説』2008年  
 全国社会福祉協議会『新保育所保育方針を読む〔解説・資料・実践〕』2008年

評価方法・評価基準：課題・日案/細案作成・提出物・発表・試験等で総合的に評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○	○		○	○		60
小テスト・ 授業内レポート							30
授業態度・ 授業への参加度							評価に加えず
受講者の発表							10
演習							評価に加えず
出席							評価に加えず
その他							

履修上の注意：

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
保育指導法ゼミ (Introduction to teaching methods in ECCE)		赤嶺優子・糸洲理子 松田恵子・山城いと子

授業の到達目標及びテーマ

- 知識理解：領域と保育内容について理解する。保育の全体構造、総合的に指導する視点を養う。  
 子どもの発達を理解し、指導法や保育者の役割について学ぶ。
- 思考判断：保育所（園）を見学し、保育の1日の流れを記録する。
- 関心意欲：子どもの遊びと生活に関心をもつ。
- 態度：子どもとのかかわり方を身につける。

授業の概要

保育所（園）や幼稚園の1日を把握する。保育者として子どもの発達を理解し、遊びや生活を通して、総合的に指導することを学ぶ。また、保育課程・教育課程と指導計画との関連性を理解する。保育実践やビデオ視聴等を通して、保育所（園）と幼稚園、保育内容や保育者の役割、について学ぶ。

授 業 計 画

第1回： 講義内容説明・他	第9回： 子どもを見る視点 ～発達と評価②
第2回： 領域と保育内容・保育課程と教育課程	第10回： 保育者としての子どもとの関わり方②
第3回： 保育所（園）のVTR視聴と討議	第11回： 保育記録の視点 （保育環境、保育指導計画の長期・短期）
第4回： 子どもの遊びと生活の捉え方①	第12回： 保育所（園）見学
第5回： 子どもを見る視点 ～発達と評価①	第13回： 遊びを通しての総合的な指導について
第6回： 保育者としての子どもとの関わり方①	第14回： 保育者の役割
第7回： 幼稚園のVTR視聴と討議	第15回： まとめ・授業内
第8回： 子どもの遊びと生活の捉え方②	

テキスト： 太田悦生編 『保育内容総論』 みらい

参 考 書： 文部科学省『幼稚園教育要領』・厚生労働省『保育所保育指針』

評価方法・評価基準：テスト、課題提出、保育実践発表、クラス課題等の総合評価

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○					60
小テスト・ 授業内レポート			○	○	○		20
授業態度・ 授業への参加度							評価に加え
受講者の発表							評価に加え
演 習							評価に加え
出 席				○			10
その他			○	○	○		10

履修上の注意：

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
保育カウンセリング (Counseling for Child Care)		大城 りえ

授業の到達目標及びテーマ

保育カウンセリングの意義と具体的な方法を理解する。さらに保護者支援の基本と保育所等における保護者支援の実際について理解する。

授業の概要

保育カウンセリングの意義を理解し、演習を通して具体的な方法を学ぶ。さらに、保護者支援の基本を理解し、演習を通して保育所や幼稚園での保護者支援の実際について学ぶ。

授 業 計 画

第1回： オリエンテーション、保育カウンセリングとは	第9回： 保育所・幼稚園等での具体的事例③
第2回： ロールプレイ①	第10回： 保育所・幼稚園等での具体的事例④
第3回： 保育カウンセリングの原則	第11回： 虐待への対応
第4回： 保育カウンセリングの進め方	第12回： 障がいを持つ子どもの保護者とのかわり
第5回： 保育カウンセリングの技術	第13回： 子育て支援になる連絡帳の書き方
第6回： ロールプレイ②	第14回： 関係機関等との連携
第7回： 保育所・幼稚園等での具体的事例①	第15回： まとめ・授業内試験
第8回： 保育所・幼稚園等での具体的事例②	

テキスト： クラスにて案内します。

参 考 書： 随時、紹介する。

評価方法・評価基準： 期末試験、授業内レポート（毎時間提出）、演習、出席

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○		○				40
小テスト・ 授業内レポート			○				15
授業態度・ 授業への参加度							評価に加え
受講者の発表							評価に加え
演 習	○	○	○				30
出 席				○			15
その他							

履修上の注意： 授業内レポートとして、授業のまとめと感想を毎時間提出します。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
保育・教職実践演習（幼稚園）		山城 眞紀子・川西 康裕・大山 伸子 吉村 壮明・喜舎場 勤子・大城 りえ 赤嶺 優子・照屋 建太

授業の到達目標及びテーマ

自己の課題を認識し、保育者として求められる最小限必要な資質能力を形成する。

授業の概要

これまでの講義・演習、さらに実習を通して得た知識技能を統合し、実践力のある保育者としての資質形成を目的とする。

保育者として必要な①使命感・責任感・教育的愛情、②社会性や対人関係能力、③幼児理解や学級経営、④保育内容の指導力などを、演習（ロールプレイング、フィールドワーク、模擬保育）を通して、具体的に学んでいく。

授業計画

	内容	担当
第1回：	イントロダクション・これまでの学修の振り返りについての講義・グループ討論	全教員
第2回：	飼育栽培活動のポイントとその展開	照屋建太
第3回：	幼稚園現場における保育者の資質と実践力および造形表現教育	吉村壮明
第4回：	幼児の豊かな表現力を育てる音楽指導法（演習・グループ討議）	大山伸子
第5回：	健やかな成長をめぐる課題と指導法（グループ討議）	山城眞紀子
第6回：	フィールドワークの視点	全教員
第7回：	幼稚園現場のフィールドワーク①	全教員
第8回：	幼稚園現場のフィールドワーク②	全教員
第9回：	事例研究会①	全教員
第10回：	事例研究会②	全教員
第11回：	幼児理解や学級経営についての講義・グループ討論	赤嶺優子
第12回：	幼児理解とカウンセリングマインド（ロールプレイング）	大城りえ
第13回：	保育者の資質向上ならびに組織開発のためのソーシャルグループワーク演習	川西康裕
第14回：	保育者の使命感・責任感・教育的愛情	喜舎場勤子
第15回：	資質能力の確認、まとめ	全教員

テキスト： 授業内容に応じて資料を配布

参考書： 適宜に提供

評価方法・評価基準： レポート課題・フィールドワークの資料作成・出席状況・学習態度

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)								
小テスト・ 授業内レポート								80 (10×8)
自己評価表								10
事例研究資料作成								10
事例研究発表および事後 の学び								10
保育教職実践演習の まとめ								10
その他								

履修上の注意：

授業科目名	5単位	担当教員						
教育実習（幼稚園） （Pract. Teaching in Kindergarten）		大城 りえ						
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 保育に必要な知識や実践技術を身につける。 教育実習を通して、幼児期の特性や環境を通して行なう保育について理解を深める。 幼児期にふさわしい生活の展開や遊びを通しての総合的な指導、教師の役割等について、教育実習を通して学びを深め、教師としての資質を身につける。								
<b>授業の概要</b> 本学で学んだ専門的知識や技術を教育実習で実践することによって、教師となる自覚を得る。								
<b>授 業 計 画</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習園でのオリエンテーション</li> <li>・実習園の方針についての一般的理解</li> <li>・幼児理解、人的・物的環境等の理解</li> <li>・保育内容の一般的理解</li> <li>・幼児との関わり</li> <li>・保育内容と保育形態の理解</li> <li>・教育実習の段階             <ol style="list-style-type: none"> <li>1)見学・観察実習</li> <li>2)参加・部分実習</li> <li>3)部分・責任実習</li> </ol> </li> <li>・実習園の諸行事への参加</li> <li>・実習日誌はその日に記入し翌朝提出</li> <li>・指導案は、1週間前に提出</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.実習指導に出席し、教育実習の一環として受講（実習訪問報告書・調査書・誓約書・他・提出物含む）</li> <li>2.実習の中間協議は、実習期間中の土曜日に、本学にて実施、実習の一環として参加（出席カード提出）</li> <li>3.実習終了後の反省会に参加（出席カード提出）</li> <li>4.実習日誌は実習終了後、本人が園から受け取り本学へ提出</li> <li>5.実習終了後は、実習レポートを本学に提出</li> <li>6.幼稚園実習終了後の評価表（幼稚園教育実習）自己評価の提出</li> </ol>								
<b>テキスト：</b> 幼稚園教育要領解説書、その他必要な資料は担当者が準備する。								
<b>参 考 書：</b>								
<b>評価方法・評価基準：</b> 実習園の評価、日誌、実習レポート、実習指導の出席状況、提出物等を総合して評価する。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)								
小テスト・ 授業内レポート								
授業態度・ 授業への参加度								
受講者の発表								
演 習								
出 席					○		○	30
その他（提出物含む）	○	○	○	○	○	○	○	70

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
視聴覚教育 (Audio Visual Education)		赤嶺 優子

授業の到達目標及びテーマ

視聴覚教材について理解を深め、自ら表現できるようにする。教育・保育現場で自信を持って子どもに接し場面に応じた教材の活用ができるようにする。

授業の概要

保育における「視聴覚教材」の意義について理解する。幼児の豊かな感性を育むための教材をいくつか取りあげ製作をととして保育技術を習得する。また作品発表を経験することで表現者としての素養を身につける。

授 業 計 画

第1回： ペープサート・パネルシアター・エプロンシアターについて	第9回： 大型教材 軍手人形&絵本&紙芝居・他
第2回： フラット教材 エプロンシアター・ペープサート・他	第10回： 大型教材 軍手人形&絵本&紙芝居・他
第3回： フラット教材 エプロンシアター・ペープサート・他	第11回： 大型教材 軍手人形&絵本&紙芝居・他
第4回： * 作品発表	第12回： 大型教材 軍手人形&絵本&紙芝居・他
第5回： 劇化教材 パネルシアター&エプロンシアター・他	第13回： * 作品発表
第6回： 劇化教材 パネルシアター&エプロンシアター・他	第14回： ディスプレイ教材・他
第7回： 劇化教材 パネルシアター&エプロンシアター・他	第15回： まとめと作品提出・授業内
第8回： * 作品発表	

テキスト： 必要に応じてプリントを配布する。

参 考 書：

評価方法・評価基準：

出席状況・受講態度・提出物・制作作品(ディスプレイを含む4点)課題発表等を総合的に評価する。

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)				○	○	○		50
小テスト・ 授業内レポート								10
授業態度・ 授業への参加度								0
受講者の発表								20
演 習								評価に加えず
出 席								20
その他								

履修上の注意：



授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
視聴覚教育 (Audio Visual Education)		真栄城 かの子

授業の到達目標及びテーマ

視聴覚教材について理解を深め、自ら表現できるようにする。教育・保育現場で自信を持って子どもに接し場面に応じた教材の活用ができるようにする。

授業の概要

保育における「視聴覚教材」の意義について理解する。  
 幼児の豊かな感性を育くむための教材をいくつか取りあげ、製作をとおして保育技術を習得する。  
 また実践発表を経験することで表現者としての素養を身につける。

授 業 計 画

第1回：	ペープサート・パネルシアター・ エプロンシアターについて
第2回：	フラット教材 ペープサート・他 年少向け作品①
第3回：	フラット教材 ペープサート・他 年少向け作品①
第4回：	* 作品実践発表 大型教材 ①
第5回：	軍手人形&絵本&紙芝居・ 沖縄の昔話・他 作品② 大型教材 ①
第6回：	軍手人形&絵本&紙芝居・ 沖縄の深話・他 作品② 大型教材 ①
第7回：	軍手人形&絵本&紙芝居・ 沖縄の深話・他 作品②
第8回：	* 作品実践発表

第9回：	劇化教材 パネルシアター&エプロンシアター ・他 年長向け作品③
第10回：	劇化教材 パネルシアター&エプロンシアター ・他 年長向け作品③
第11回：	劇化教材 パネルシアター&エプロンシアター ・他 年長向け作品③
第12回：	劇化教材 パネルシアター&エプロンシアター ・他 年長向け作品③
第13回：	* 作品実践発表
第14回：	ディスプレイ教材・他 作品④
第15回：	まとめと作品提出・授業内

テキスト： 必要に応じてプリントを配布する。

参 考 書：

評価方法・評価基準：

出席状況・受講態度・提出物・製作作品(ディスプレイを含む4点)課題発表等を総合的に評価する。

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)				○	○	○		40
小テスト・ 授業内レポート								10
授業態度・ 授業への参加度								0
受講者の発表								20
演 習								評価に加えず
出 席								30
その他								

履修上の注意：

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
保育メディア研究 (Pre-Sch. Educ. Media Studies)		米盛 徳市

授業の到達目標及びテーマ

授業の概要

保育園や幼稚園では、①ペイント（お絵かきソフト）を使って、子どもたちの視覚に訴える様々な表示を行ったり、②パワーポイント（プレゼンテーションソフト）を使って、卒園式で1年間の子どもの園生活の様子や研究発表等のプレゼンテーションを行ったりしている。③絵本作成を行う。

これからの保育士や幼稚園教諭には、ワープロやお絵かきソフト及びプレゼンテーションソフト等を活用できる能力が求められている。

そこで、本講義においては、保育園や幼稚園で求められている上述の内容について、すべての学生ができるようにすることを目指している。そして、その成果の一部を学内のすべての学生及び教員に公開する。

授 業 計 画

第1回：	保育園・幼稚園におけるマルチメディア活用の実態と今後の方向性
第2回：	ワード（ワポソフト）における画像のコピーと貼付・テキストボックスの活用
第3回：	ワードを活用した「学級便り」の作成
第4回：	パワーポイントの基本的な操作方法
第5回：	パワーポイントによる自己紹介プレゼンテーションの作成
第6回：	アニメーション機能を取り入れた自己紹介プレゼンテーションの作成
第7回：	アニメーション機能を取り入れた「母への感謝の手紙」プレゼンテーションの作成

第8回：	ペイント（お絵かきソフト）で笑っている自画像を描き、パワーポイントに貼り付ける操作
第9回：	自分が理想とする幼稚園の園庭で遊んでいる場面をペイントで描くⅠ
第10回：	自分が理想とする幼稚園の園庭で遊んでいる場面をペイントで描くⅡ
第11回：	自分が理想とする幼稚園の園庭で遊んでいる場面をペイントで描くⅢ
第12回：	ペイントを使用した絵本作成Ⅰ
第13回：	ペイントを使用した絵本作成Ⅱ
第14回：	ペイントを使用した絵本作成Ⅲ
第15回：	ペイントを使用した絵本作成Ⅳ

テキスト：エクスメディア 『超図解 PowerPoint 2002 for Windows』（株）エクスメディア

評価方法・評価基準：課題：425点、出席点：75点（欠席：5点減点、遅刻：2点減点）

正当な理由なくして4回以上欠席した場合は作品の提出の如何に関わらず単位は認められない。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度・ 授業への参加度							
受講者の発表							
演 習	○	○	○	○	○		85%
出 席				○			15%
その他							

履修上の注意：保育士や幼稚園教諭を目指している学生は、できるだけ履修することが望ましい。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
コンピュータリテラシー (Computer Literacy)		内間清晴・高江洲義尚

### 授業の到達目標及びテーマ

PC の基礎的操作方法を習得させるものであるが、具体的にはワープロによる文章の作成、表計算ソフトによる数値情報の分析方法、基礎的なデータベースソフトの活用方法などを実践的に修得すること

### 授業の概要

コンピュータ操作の基本的な知識・技能を習得し、究極的には情報を自由に検索、享受、処理、加工、創造、発信が行えるような情報リテラシーを育て、コンピュータを日常使いこなせるための基礎を学ぶ。また、情報化社会へ参画する姿勢についても学ぶ。

### 授 業 計 画

- 第 1 回： オリエンテーション：①パソコンの概念 ②使用登録・パスワードの設定 ③電子メールの設定
- 第 2 回： パソコンの概念：①Windows の基本操作 ②OS の基本操作 ③インターネット
- 第 3 回： Word2007：①Word の基本操作 ②文章の作成保存
- 第 4 回： Word2007：①文章のデザイン
- 第 5 回： Word2007：①書式の応用
- 第 6 回： Word2007：①表示能力を高める ②オブジェクトの挿入
- 第 7 回： Word2007：①はがき文書の作成 ②図形の作成
- 第 8 回： Word2007：①表の作成 ②表の編集
- 第 9 回： Excel2007：①基本操作 ②一覧表の作成 ③データの入力
- 第 10 回： Excel2007：①計算式の入力
- 第 11 回： Excel2007：①関数式の入力
- 第 12 回： Excel2007：①グラフの作成
- 第 13 回： Excel2007：①グラフのデザインおよびレイアウト
- 第 14 回： Excel2007：①データの並べ替え ②データの検索 ③データへの条件設定
- 第 15 回： まとめ

テキスト：『例題 30+演習問題 70 でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint 標準テキスト

参 考 書：

評価方法・評価基準：課題 80 点 出席及び授業に臨む姿勢

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度・ 授業への参加度	○	○	○	○	○		評価に加える
受講者の発表							
演 習	○	○	○	○	○		80
出 席							20
その他							

履修上の注意：各自 USB メモリーを準備すること

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
日本国憲法 (Japanese Constitution)		仲宗根 京子

### 授業の到達目標及びテーマ

そもそも法律とは別に、なぜ憲法があるのでしょうか？本講義では、日本国憲法の基本原理を学んだ上で、私達の身近にある憲法に関する具体的な問題をより深く理解することで、主権者である私達自身が、憲法の現在そして未来について考えられるようになることを目標とします。

### 授業の概要

まず、近代立憲主義が確立されてきた世界の歴史や日本国憲法が成立するまでの歴史をたどり、次に、憲法で保障されている基本的な権利の内容を具体的な事例を基に解説します。そして、基本的人権を保障するための国の仕組みや平和主義について理解を進める予定です。

### 授 業 計 画

第 1 回：	ガイダンス、近代立憲主義の確立、明治憲法から日本国憲法へ	第 9 回：	その他の人権、まとめ
第 2 回：	日本国憲法の基本原理（憲法とは誰を縛るルールか？）	第 10 回：	統治総論（三権分立とは？）
第 3 回：	人権総論 (新しい人権、外国人、子供)	第 11 回：	国会
第 4 回：	法の下の平等	第 12 回：	内閣
第 5 回：	精神的自由 ①内心の自由	第 13 回：	裁判所
第 6 回：	②表現の自由（教科書検定他）	第 14 回：	平和主義
第 7 回：	経済的自由	第 15 回：	授業内試験
第 8 回：	社会権（自由権との違いは？）		

テキスト： 吉田仁美編著『スタート憲法』（成文堂）

参 考 書： 初宿正典他著『いちばんやさしい憲法入門第4版』有斐閣アルマンシリーズ（有斐閣）

評価方法・評価基準： 期末試験の結果、出席状況、授業態度などから総合的に評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○			○		50
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度・ 授業への参加度			○	○			15
受講者の発表		○	○		○		15
演 習							
出 席			○				20
その他							

履修上の注意： 受講希望者は、必ず第 1 回目の授業に出席してください。

授業科目名	1 単位 (1-0)	担当教員
体育理論 [Physical Education(Theory)]		張本 文昭

### 授業の到達目標

現代社会に生きる人々や自分自身の「からだの内面（こころ）」について認識し、よりよいライフスタイルを構築できる知識と態度を養うこと。

### 授業の概要

授業前半では、現代社会における身体的健康問題や、運動の効果について解説します。  
授業後半では、スポーツメンタルトレーニングの方法を援用し、自分自身の内面について自己分析を試みます。  
また、自分のライフスタイルを認識し、ふりかえることを目的に「生活習慣ダイアリー」を記録してもらいます。

### 授 業 計 画

第 1 回： コースオリエンテーション	第 9 回： 栄養摂取とカロリー摂取
第 2 回： 健康って？	第 10 回： こころの健康
第 3 回： ヒトという視点から見た現代人	第 11 回： スポーツメンタルトレーニングの目的と方法
第 4 回： 運動不足の影響	第 12 回： スポーツメンタルトレーニングの効果
第 5 回： 運動の身体的効果	第 13 回： 心理テスト
第 6 回： 生活習慣病、 メタボリックシンドローム	第 14 回： 目標設定
第 7 回： 健康づくりのための運動、 有酸素運動	第 15 回： まとめ・授業内試験
第 8 回： ダイエットに関する誤解と 正しい知識	

テキスト： 使用しない。講義ごとに資料を配布する。

参 考 書： 九州大学健康研究センター編『健康と運動の科学』 大修館書店他

評価方法・評価基準：レポート 60 点 (30 点×2 回)、テスト 40 点、による。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○					40
小テスト・ 授業内レポート		○	○				60
授業態度・ 授業への参加度							
受講者の発表							
演 習							
出 席							
その他							

履修上の注意：

授業科目名	1 単位 (0-3)	担当教員
体育実技 [Physical Education (Sports)]		張本 文昭

授業の到達目標

- 1) スポーツの楽しさ、喜びを味わうこと。
- 2) スポーツに対して、「真剣に」「コミュニケーションを図りながら」実践することを通し、諸課題を解決しながら、個人またはグループの成長プロセスに介入できるようになること。

授業の概要

教材としてバレーボールおよびバスケットボールをとりあげる。毎授業では技能練習と試合を実施する。個人とグループの諸課題について、1)実践 2)ふりかえり 3)次の課題設定 4)実践というプロセスを繰り返すことによって、個人またはグループの成長プロセスを考える機会とする。

授 業 計 画

第 1 回 :	コースオリエンテーション (授業概要、目標、成績評価方法、等)	第 9 回 :	バレーボール : 総合練習、ゲーム
第 2 回 :	イニシアティブゲーム (コミュニケーションの促進と雰囲気作りのためのゲーム)	第 10 回 :	バスケットボール : 技能の自己認識
第 3 回 :	〃	第 11 回 :	バスケットボール : 個人技能練習、ゲーム
第 4 回 :	バレーボール : 技能の自己認識	第 12 回 :	バスケットボール : 個人技能練習、ゲーム
第 5 回 :	バレーボール : 個人技能練習、ゲーム	第 13 回 :	バスケットボール : チーム技能練習、ゲーム
第 6 回 :	バレーボール : 個人技能練習、ゲーム	第 14 回 :	バスケットボール : チーム技能練習、ゲーム
第 7 回 :	バレーボール : チーム技能練習、ゲーム	第 15 回 :	バスケットボール : 総合練習、ゲーム
第 8 回 :	バレーボール : チーム技能練習、ゲーム		

テキスト： 使用しない。

参考書： 特になし

評価方法・評価基準：出席 60 点 レポート 40 点 計 100 点による。実技試験は実施しない。

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)								
小テスト・ 授業内レポート			○		○			40
授業態度・ 授業への参加度								
受講者の発表								
演 習								
出 席			○		○	○		60
その他								

履修上の注意：

- 1) 体育館用のシューズを準備し、運動にふさわしいウェアで参加すること。
- 2) 金属製のピアス、ネックレス、ブレスレット等、人を傷つけ、傷つけられる恐れのあるモノは外すこと。
- 3) その他の注意事項は初回授業時に伝達する。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
オーラルイングリッシュ (Oral English)		Michael Hertz

授業の到達目標

### 授業の概要

この講義の目的は、保育の現場でますます必要とされる英会話の表現力及び理解力を育てることにある。また米国の初等教育制度を学ぶ学生は、海外研修に備え、教育又は保育現場で使用される日常英会話を始め、専門的表現の学習を目的とする。

簡単な英会話スキット／寸劇の作成、英語で童謡の合唱や、英語を使ったゲームなどに親しみながら、実際に米国の教育または保育現場で用いられている英語の表現とアクティビティを学習する。

授 業 計 画 ※講義内容については、若干変更になることがあります。

- ・ 米国の保育の現場で日常的に使用されている英語の表現力を習得させる
- ・ 広く親しまれているゲーム等とおして英会話の発達と理解を深める
- ・ 児童向けの歌やダンスの練習をとおして英語を学ぶ楽しさを教える
- ・ 英会話と発音のスキルアップ及びボディランゲージを使つての表現の向上
- ・ 簡単な英会話スキットの作成と実演
- ・ 英語の絵本を読んでみよう
- ・ 授業の進め方、児童の扱い方  
(良い例・悪い例を交えながらマル秘テクニックを伝授)

テキスト： 教材は、その都度講義担当者が準備、配付する。

参 考 書：

評価方法・評価基準：出席日数、授業への積極的参加、個人およびグループワークを総合的に評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度・ 授業への参加度							
受講者の発表							
演 習							
出 席							
その他							

### 履修上の注意：

- ・ 授業への参加が最も重視されるので、欠席しないように。
- ・ 個人及びグループワークへは積極的に参加するように。
- ・ 正当な理由以外の欠席は一切認められません。よつてそれ以外の欠席は届けなくてもよい。(公欠のみ提出)
- ・ 出席状況については各自で確認すること。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
英語 (English)		Michael Hertz・David Itokazu

授業の到達目標：

**授業の概要** The objective of this class is to develop English communication skills increasingly necessary in today's preschool/kindergarten/elementary school working environments. Students wishing to study the American elementary school system abroad will also gain valuable knowledge in preparation for their foreign experience trip. Everyone will be expected to participate in simple skits, songs, games and lectures, etc. to improve their skills and confidence. This class is designed to be fun and enlightening.

**授 業 計 画**

第 1 回：	Introduction and Requirement of the Course / Student Self Introduction Learn to Control the classroom environment from the first day of class. Play popular games used to develop English use and comprehension and break down the game structure to identify key learning points.	第 8 回：	Lecture & Group Discussion: Longevity (Okinawa highest life expectancy in the world) Read children's books aloud and discuss inner messages
第 2 回：	Lecture: Why Study English Learn and participate in children's songs that help guide mental development	第 9 回：	Classroom management techniques: Destructive Diet, Exercise and Healthy Lifestyle
第 3 回：	Lecture: The Art of Listening for Effective Communication Learn and participate in children's dances that help guide physical development	第 10 回：	Classroom management techniques: Motivational Exploring Internet and the Best of Internet
第 4 回：	Introduction of Basic Vocabulary for Basic English Communication Learn common English vocabulary used in the pre-school / kindergarten and elementary education	第 11 回：	Current Events related Culture, Education and Globalization Identifying and acting on concerns for children's safety
第 5 回：	Seasonal Arts and Crafts DVD: Title: "Contact" Basic Communication and Human Understanding	第 12 回：	Learn to create a yearly, monthly, weekly and daily curriculum Global Community and Global Communication
第 6 回：	Fun with verbal and non-verbal skills development DVD: Title: "Laughter"- Babies Non-Verbal Communication	第 13 回：	The Assistant Language Teacher: Duties and Responsibilities DVD : Universal Music and Global Communication : Timeless Songs
第 7 回：	Lecture & Group Discussion: Population Decline in Japan (Lowest fertility rate in the world) Participate in simple skits	第 14 回：	Communication with foreign parents: cultural differences and more DVD : Movie on The Art of Giving / Sharing
		第 15 回：	The power of praise Summary and Conclusion

テキスト： References: Textbooks ↓

- 1) Jump-Start Your English 2) BBC Documentary Natural Remedy 3) World English Introduction 4) Expanding your Vocabulary Skills  
Materials are prepared and provided by the instructor for every class except for some portions of Arts and Craft classes.

評価方法・評価基準：

Class attendance, participation, and individual/group presentations will be incorporated in the final grade.

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)								評価に加えず
小テスト・ 授業内レポート		○	○	○	○	○		20
授業態度・ 授業への参加度		○	○	○	○	○		20
受講者の発表		○	○	○	○	○		20
演 習		○	○	○	○	○		20
出 席		○	○	○	○	○		20

**履修上の注意：** Class participation weighs heavy, so it is important not to miss class. Enthusiastically participate in group and individual presentations. Do not submit absence requests other than (Seitou); they will not be accepted. Generally, keep track of your own attendance, but ask when needed.



授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
中国語 (Chinese)		武村 朝吉

授業の到達目標及びテーマ

中国語の発音（声調コントロールを含む）の基礎を習得する。  
基本的な文法事項を理解し、初級レベルの簡単な会話ができるようにする。

授業の概要

「21世紀は中国の世紀」——隣国中国の公用語である中国語の需要は高まっている。  
中国語学習の基本となる、発音、声調コントロールをしっかり練習し、挨拶、自己紹介等、平易な会話ができるようにする。

授 業 計 画 合計 30 回

第 1 回： 中国語発音概説	第 9 回： 自己紹介の表現
第 2 回： ピン音、声調	第 10 回： 中国語の平叙文
第 3 回： ピン音の書き取り、発音練習	第 11 回： 中国語の疑問文
第 4 回： ピン音の書き取り、発音練習	第 12 回： 中国語の否定文
第 5 回： 簡体字概説	第 13 回： 副詞、形容詞
第 6 回： 中国語の挨拶表現	第 14 回： 会話で使われる表現
第 7 回： 数字の教え方	第 15 回： 会話で使われる表現
第 8 回： 時間、曜日の表現	

テキスト：『漢語会話 301 句』康玉華、来思平，北京言語大学出版社

参考書：任意

評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○			○		
小テスト・ 授業内レポート	○	○			○		
授業態度・ 授業への参加度			○	○	○		
受講者の発表	○		○	○	○		
演 習							
出 席			○	○			
その他							

履修上の注意

相互（学生⇄教師，学生⇄学生）の尊重。

食べ物・飲み物の持ち込み、無断外出、授業中の携帯使用禁止。5回以上欠席で「不可」とする。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
韓国語 (Korean)		李 春花

### 授業の到達目標

ここ数年、地理的にアジアの中で一番近い隣国であり、歴史的に密接な交流関係を展開した日本と韓国の間には大衆文化の開放的交流が活発になり、韓国語を学ぶ人の数も急速に増えている。本授業を通し、韓国語のみならず隣国である韓国の文化や社会に対する理解を深め、21世紀の主役として、国の境界線を越えたグローバルな視点を養い、将来様々な形で国際的交流に役立つ能力を身につける。

知識理解：ハングル文字を読み書き、易しい日常会話と発音を聞き話し、簡単な文法を説明できる。

関心意欲：異文化コミュニケーションに興味を持てる。 態度：専門性、責任意識を持つ。

思考判断：日本と韓国との文化や社会的共通点と相違点を指摘できる。

### 授業の概要

韓国語の語順は日本語とほとんど同じなので、初めての学習者でもわかりやすい。初めての学習者でもわかりやすく楽しめるように心がけ、ハングル文字の学習、易しい日常会話を中心に基本文法を扱い、講義を進めながら、韓国文化と歴史、韓国人とのコミュニケーションの取り方、DVD やインターネット等の視聴覚材料をもって韓国の歌やドラマ及び映画などを紹介する。

### 授 業 計 画

第 1 回：	授業計画（韓国を知る・ことばの特徴・ハングル文字について）と自己紹介	第 8 回：	テキスト第 7 課 会話(1)と指定詞の否定形、学生のレポート発表&意見交換 2
第 2 回：	テキスト第 1 課 挨拶表現(1)と母音(1)、歌の学習	第 9 回：	テキスト第 8 課 会話(2)と합니다体、学生のレポート発表&意見交換 3
第 3 回：	テキスト第 2 課 挨拶表現(2)と子音(1)・母音(2)	第 10 回：	テキスト第 9 課 会話(3)と漢数字、学生のレポート発表&意見交換 4
第 4 回：	テキスト第 3 課 挨拶表現(3)と子音(2)・母音(3)	第 11 回：	テキスト第 10 課 会話(4)と固有数字、学生のレポート発表&意見交換 5
第 5 回：	テキスト第 4 課 挨拶表現(4)と終声(パッチム)	第 12 回：	授業内試験(会話)
第 6 回：	テキスト第 5 課 挨拶表現(5)と発音の変化	第 13 回：	韓国映画鑑賞
第 7 回：	テキスト第 6 課 自己紹介と指定詞、学生のレポート発表&意見交換 1	第 14 回：	復習や授業についての意見交換
		第 15 回：	授業内試験(筆記：ハングル文字)

テキスト： 姜英淑外 5 人著『楽しく学ぶ ハングル 1』白帝社

参考書： 入佐信宏・文賢珠著『よくわかる 韓国語 STEP1』白帝社  
木内明著『基礎から学ぶ 韓国語講座 初級』国書刊行会

### 評価方法・評価基準：

- ・期末テスト 40% (会話：自己紹介等のフリートーク 10%、筆記：ハングル文字 30%)、毎回の課題提出 (会話とハングルに関する学習) 20%
- ・韓国文化についてのレポート提出 (A4 用紙 1-2 枚) & 発表 (3 分程度) 20% ・出席や授業態度 (遅刻や私語等減点) 20%

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○		○	○		
毎回の課題提出	○		○				
レポート提出&発表		○	○		○		
授業への参加度				○			
演習							
出席			○			○	
その他							

履修上の注意：学生は常に出席し、授業中に発音練習、レポート発表&意見交換などに積極的に参加する。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
スペイン語 (Spanish)		又吉 パトリシア

### 授業の到達目標

初めてスペイン語を学ぶ生徒がスペイン語の基礎文法を習得し、簡単な会話と自己紹介ができるように、またスペイン語圏の国々の事情及び文化などを知ることを目指す。

### 授業の概要

世界のスペイン語を話す人口は現在およそ4億人以上といわれ、スペインだけでなくラテンアメリカの19の国々でも公用語として使用されている。特に沖縄県では多くの移民を中南米へ送り出したという歴史的な理由から、今日でも経済的、文化的な交流が活発に行われている状況にある。講義では教科書だけではなく、副教材として歌やビデオ教材、映画などを使って、スペイン語圏の世界を紹介する。

### 授 業 計 画

- 1回： 世界におけるスペイン語、スペイン語圏の国々、沖縄と中南米諸国との関係の紹介
- 2回： スペイン語の特徴(アルファベット、発音、アクセント)
- 3回： 主語人称代名詞、SER 動詞の直接法現在形の活用
- 4回： 名詞の性と数、定冠詞(定冠詞、不定冠詞)、HAY 動詞、数字0~10
- 5回： 時刻と日付を表す(数字：11~、曜日、月)
- 6回： ESTAR 動詞の直接法現在形の活用、場所を尋ねる
- 7回： SER 動詞と ESTAR 動詞の比較
- 8回： -ar 動詞の直説法現在形の活用、前置詞
- 9回： -er と -ir 動詞の直説法現在形の活用、疑問詞
- 10回： 日常生活について話す(動詞の直説法現在形の復習)
- 11回： 値段の聞き方、買い物とレストランでの会話
- 12回： 間接目的格人称代名詞、GUSTAR 型の動詞の活用
- 13回： 復習、スペインの夏祭りの紹介
- 14回： 期末テスト
- 15回： 自己紹介また家族の紹介についての発表、前期のまとめ

テキスト：1. 『OKINAWA LATINA』スペイン語への架け橋 (沖縄県スペイン語教材開発研究会)(¥1,000)

参 考 書：1. 講師作成資料

2. 『スペイン語ミニ辞典』宮城・宮本編 白水社(¥2,800)、またはスペイン語電子辞書

評価方法・評価基準：最終評価は次の点の合計点とする。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験(中間・期末試験)	○	○			○		50
小テスト	○	○			○		10
授業態度・ 授業への参加度	○	○	○	○	○		10
受講者の発表	○	○	○	○	○		10
演 習							X
出 席			○	○			5
宿題	○	○	○		○		15

- 履修上の注意：
- ①テキストとスペイン語辞典(電子辞書)を持参すること。
  - ②動詞の活用をよく予習・練習すること。
  - ③頻繁に小テストを実施するため宿題、予習、復習等をこなすこと。
  - ④配布されたプリント、資料を大事にファイルすること。